

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700234		
法人名	株式会社ヤマショー		
事業所名	グループホーム絆		
所在地	青森県三戸郡南部町大字斗賀字沼田71-1		
自己評価作成日	令和3年11月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>令和元年8月より事業を開始しております。 アットホームな雰囲気、楽しく生活できるように支援しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの玄関にベンチを置いて、地域の方も座れるようにしたり、消防団や町内会に入会する等、日頃から地域住民との交流を図れるように努めている。 また、暖かい時期には隣接する施設と合同で食事会を行ったり、職員と利用者が一緒に植物をプランターで育てる等、日頃から外に出る機会を設け、気分転換を図っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	普段の業務において理念を意識しながら、管理者、職員は日々のサービスにつなげている。	地域の中で利用者が笑顔で過ごせるようにという思いを込めた、ホーム独自の理念を作成している。また、理念は事務室に掲示し、職員が日々確認できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症流行前は町や地域の行事に参加していたが、コロナ禍のため面会制限もあり、町や地域の行事への参加ができていない。	コロナ禍で面会制限もあり、地域住民に気軽に立ち寄ってもらうことは難しい状況だが、町内会に加入し、地域住民に運営推進会議のメンバーになっていただいたり、消防団に避難訓練に参加してもらう等、交流を図るための働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の方々にも参加していただき、認知症の方の支援について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、利用者様やご家族様、町内の方にご参加いただき、毎月の行事や日常生活を写真付きで報告し、ご意見等をいただきながら、事業運営につなげている。	現在はコロナウイルス感染予防のため、書面で会議を行っている。会議では、ホームの状況や自己評価及び外部評価結果等について説明している。	「自己評価及び外部評価結果」のみならず、「目標達成計画」及び「サービス評価の実施と活用状況」を会議で報告することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当の方にも運営推進会議に参加していただき、会議の内容や報告、情報交換をしている。また、相談等、随時連絡し、助言等をいただいている。	運営推進会議には町役場職員が参加しており、報告や情報交換をしている。何か相談事がある時には随時連絡して助言をもらう等、行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行って職員全体で理解し、身体拘束をしていない。	指針やマニュアルを作成している他、身体拘束検討会議は3ヶ月に1回開催しており、全職員で身体拘束の内容や弊害について理解を深めている。利用者の外出傾向を察した時は、利用者の思いに寄り添い、職員が付き添う等の支援を行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合は、その理由や方法、期間、経過観察等について記録を残す体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行って職員全体で理解し、身体拘束をしていない。また、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を活用しなければならない利用者様はいない。今後のためにも機会を持ち、制度の理解に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に書面や口頭で説明し、ご家族様から話を伺い、同意を得て、署名・押印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際、意見や要望を伺っている。	職員は面会時等、機会を見つけて意見や要望等を把握するように努めている他、家族も運営推進会議のメンバーとなっており、外部に意見等を出せる機会を設けている。また、ホーム内外の苦情受け付け窓口を玄関に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議やケア会議で話し合い、検討している。	職員会議やケア会議の場等、職員の意見を聞く機会を設けており、必要な物品等は、職員から出された意見を基に購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況等に配慮し、公休、勤務体系等を考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加できるように支援し、資格取得へも研修費用を負担する等、スキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会議に出席して情報交換し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報を収集し、ご本人様から不安や要望等を伺い、様子を観察しながら、安心して生活できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用する段階でお話を伺い、その都度、電話等でコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用する段階でお話を伺い、その時に必要なサービスを提供しながら、状況の変化に応じたサービス提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で利用者様ができる所はお願いしたり、職員と一緒にいき支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月生活状況を作成し、写真付きで様子を伝えている。必要があればご家族様に連絡し、一緒に支援していく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症流行前は、地域の行事に参加したり、外出や外泊等で馴染みの方々との交流を図れるように努めていたが、感染症流行後は、馴染みの人や知人等との関係が途切れないように心掛けている。	入居時のアセスメントや日々のコミュニケーションの中から、利用者がこれまで関わってきた人や馴染みの場所等を把握している。職員は電話のやり取り等を支援し、利用者が馴染みの関わりを継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良好な関係で生活できるように支援している。必要に応じて職員が間に入り、行事やレクリエーションを楽しめるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時、相談があれば対応することを伝え、支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のご本人様の言動を観察し、希望や要望を把握するように努めており、困難時にはご家族様に連絡して、把握に努めている。	職員は日々のコミュニケーションの中から、利用者の思いや希望、意向を把握するように努めている。また、ケアマネジャーや他の職員とも話し合い、全職員が利用者の視点に立って意向等の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの暮らしや生活状況を聞き取りし、入居後も必要に応じて連絡しながら、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや食事量・水分量、排泄を日々記録し、個々の心身状態を把握している。また、申し送り時に記入し、情報を共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が利用者様やご家族様の意向を聞きながら、ケア会議の情報を反映し、介護計画を作成している。	利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、介護計画の作成に取り組んでいる。また、利用者の身体状況や家族の希望等に変化があった際は、臨機応変に変更や見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の様子を記録している。申し送りで共有し、ケアや介護計画作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	居宅療養管理指導を利用し、必要時には病院受診の支援を行っている。また、歯科往診も利用し、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会長が参加しており、地域等の情報を交換している。火災時には地域の消防団の協力も得られるよう、体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医の往診がある他、特変時にはご家族様やかかりつけ医に状態を報告している。	入居時のアセスメントでこれまでの受療状況を把握している。ホームでは法人の協力医療機関があり、往診があることを伝えている他、希望する医療機関を受診できるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	以前は看護職員を配置していたが、現在は隣接する看護職員の協力のもと、医療関係看護師と連絡、相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に情報提供を行い、医療機関やご家族様と連絡を取り合っており、病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を入居時にご家族様へ説明しており、ご家族様から意向を聞き取っている。現在は看取りを行っていないため、対象となった場合はご家族様と話し合い、支援できるように取り組んでいる。	「重度化した場合における(看取り)指針」があり、ホームとしての方針を明確にしている。また、看護師の休職のため、現在は看取りの対応は行っていないことを伝え、了承を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時のマニュアルを作成しており、必要に応じて研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新型コロナウイルス感染症流行以前は、定期的に利用者様や消防隊、地域の消防団の方々の協力のもと、年2回、避難訓練を行っていたが、感染症流行後は、消防隊等が立ち会えないため、隣接施設と合同で避難訓練を行っている。	コロナ禍前は年2回、地域の消防団の協力のもと、避難訓練を行っていたが、現在は隣接する施設と合同で、火災発生時の避難訓練を行っている。また、消火器等の設備点検は、業者に依頼して定期的に行っている。	災害発生時を想定し、ホーム内に食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意することを期待しています。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と他人行儀になり過ぎない距離感で接するようにしている。研修等を行い、プライバシー保護について学習している。	職員は利用者の言動を否定せず、介助時や声掛け時は利用者の羞恥心に配慮している。また、プライバシーについて内部研修を行っている他、職員は入職時に守秘義務や個人情報の取扱いについて、誓約書を提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でコミュニケーションを持ち、ご本人様が希望等を話しやすい環境を作るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課はあるが、利用者様の体調や気分に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様やご家族様の希望も聞きながら、理容をしていただいている。外出時にはおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が行っているが、下拵えをお願いしたり、食器拭き等、できる事を職員の見守りにて行っている。	入居時に利用者の好みや苦手なもの、薬との関係等を把握しており、形状も個々に配慮して提供している。また、行事食も作り、利用者が食事を楽しめるように取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量や水分摂取量を利用者様毎に記入しており、個々の摂取量を把握している。また、個々の状態に応じて、常食、刻み食、極刻み食等を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアができる利用者様には声掛けにて行っていただき、できない場合は職員の介助にてケアしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、個々の排泄チェック表に記入し、排泄パターンの把握に努めている。尿意、便意が曖昧な方でも、時間を見ながらトイレ誘導し、トイレで排泄できるように支援している。	毎日、個々の排泄チェック表に記入し、パターンの把握に努めている。利用者の仕草に注意してトイレ誘導をしたり、時間を見ながらトイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取していただくようにしたり、下剤の調整等、利用者様一人ひとりに合わせた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴の曜日は設けているが、拒否等が見られた場合には、順番や曜日をずらして対応している。	入居時のアセスメントや日常の会話の中から、利用者の入浴習慣や好みを把握し、支援している。また、入浴を拒否する利用者に対しては、声掛けを変えたり、対応を工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況や希望に応じて、自由に休息していただいている。また、寝具や居室の温度調整等を行い、安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人のファイルに綴じており、把握できるようにしている。服薬時には介助や見守りをして、誤薬や飲み忘れがないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に合った役割を持っていただき、行っている。また、誕生会等の行事にて、楽しみや気分転換を図っていただくように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事にドライブを企画したり、病院受診等のご家族様との外出等、支援をしている。	天気の良い日はホームの玄関にあるベンチに腰を掛け、外気浴をしたり、利用者と職員がプランターに花の苗を植えて水やりをする等、日常的に外に出る機会を設けている。また、ドライブに行ったり、隣接する施設と一緒に屋外で食事会を開く等、利用者の楽しみや気分転換につながるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にホームで管理している。利用者様やご家族様の意向にて所持されている方もいる。ご本人様やご家族様に確認し、支払い等を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があった際は、電話できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けをしている。照明や室温等、不快にならないように配慮している。	ホールにはテーブルやソファ、小上がりにはこたつがあり、利用者が自由に寛げるようにしている。また、ホーム内には季節毎の飾り付けをし、利用者が季節を感じるできるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルやソファ、冬期にはこたつがあり、好きな時間に自由に寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスは施設の物を利用させていただいているが、入居時に使い慣れた物を準備していただき、使用していただいている。以前はテレビやゲーム機を使用したり、位牌を飾っている方もいた。	利用者が安心して過ごせるよう、入居前から使用していた物や愛用品等を持って来ていただくよう、家族に働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室に目印を付け、居室がわからない方には名前を付ける等、配慮している。また、手すりを設置している他、トイレには自動点灯照明があり、夜間の移動も安全にできるように配慮している。		